

やまば

ふるさとだより

第14号

令和3年1月5日

発行 山田地区ふるさとづくり

推進協議会(山田公民館内)

住所 富山市山田湯 880

電話 457-2055・FAX 457-2207



特産化を目指すソバの生育を調べる写真左から富山農林振興センター八木指導員、(株)ヒルフロント富山代表、(農)清水営農組合山崎組合長(令和2年9月30日清水地区で撮影)

紙面 P2～4 地域農業情報 P5 成人式、ふるさと講座、子どもかがやき教室 P6 文化祭、講座募集案内

☆新年にあたって

山田地区ふるさとづくり推進協議会 会長 吉田良雄

新年あけましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルスが世界中で感染拡大し、多くの方が亡くられました。日常の様々な活動が制限され東京五輪は延期となりました。経済活動は低迷し、雇用の環境は大変厳しいものとなりました。また、九州地方などで記録的な豪雨災害が発生し甚大な被害となりました。一方、山田地域では、市主催の「まちづくりと公共施設のこれからを考えるワークショップ」が開催されました。身近な公共施設の再編や統廃合に当たっては、地域住民の理解と合意を基本に慎重に進められるよう強く望みます。

私たちの地域は、人口減少に歯止めがかからない状況となっていますが、地域住民が安心して暮らせる環境を整え、大切な農地や森林を守り、次の世代に引き継いでいかなければなりません。それには、地域を担う人材を育成・確保し、地域資源の付加価値を高める活動を支援することが重要です。本協議会では、公民館と連携して、市民の多様な学習活動や地域活動を支えながら、「住んでいてよかった・移住してきてよかった」と実感できるようなふるさとづくりに一層取り組んでまいります。皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◇ I ターン・新規就農された方にスポット

☆ソバ栽培と農業の6次産業化に取り組む富山幸祐さん

株式会社ヒルフロントの富山幸祐さんは、石川県生まれ、富山市婦中町速星で育ち、県外の大学に進みそのまま就職。そのような方がなぜこの山田に・・・？農業経験のない富山さんが山田地域で農業に携わられたきっかけは、大学の物理学科で学んだことを生かし、地元富山で会社を作ろうと思ったこと



とだそうです。

平成25年に後継者を募集していた山田清水の谷上さんと出会い、谷上さんの指導の下、農業の研修を始められ、平成27年4月に(株)ヒルフロントを設立されました。

今年6年目になり、経営面積約20haで、無農薬にこだわり、安全安心を追求し、ソバ、水稻、大根、自然薯や啓翁桜を栽培、生産・加工・販売を自ら行う農業の6次産業化に取り組んでおられます。特に力を入れているソバは16haで目指すはその土地でしか出来

ないような栽培の仕方、土壌の改良、肥料の厳選などにより、ソバの生育にとって好環境を作ること、しいては植物の総合作用を考えていくことだそうです。

若年層の農業離れが進む中、なぜこの仕事を選んだのか伺うと、一言「ご縁あって」という言葉が印象的でした。人との出会いから誕生した(株)ヒルフロントの企業理念は「過去に感謝し未来につなぐ」まさに富山さんの人柄がそこに詰まっているようです。

今後の目標として「日々の活動を通して先進農家や様々な分野の方たちから学び、協力し合って、農業で自立できるよう頑張りたい。そして山田地域の役に立てるような存在になり、山田産の魅力ある農作物を外部にアピールしていきたい。」と話されました。

☆東京から移住の長谷川雄紀さん

長谷川さんは、平成27年NPO法人グリーンツーリズムとやまの帰農塾に参加されたことがきっかけで、東京から富山に移住されました。そして、地域おこし協力隊の一員として山田地域で3年間の活動を経て、現在は中村集落に住まれ、(株)ヒルフロントの社員として米や野菜栽培などに携わっておられます。

「山田地域は、山や海などの自然が当たり前のように近くにあるということが魅力です。」との長谷川さん。でも真冬の厳しい寒さには慣れていないそうです。「東京にいる時に第一種狩猟免許を取得しているので、今後、狩猟にかかわれる機会があれば嬉しいです。また、農業の仕事を任せてもらえることが今の目標です。」と意気込みを話されました。



◇持続可能な農業を目指し「ソバ」の産地化と担い手育成を

☆農事組合法人清水営農組合 組合長 山崎 巖さん

中山間地で農業を守り農業を継続するのは厳しい状況だ。イノシシやシカの獣害、用水や農道の老朽化、担い手の高齢化、温暖化による自然災害の脅威、米価の下落など、これでは生産力の低い山手米農家が減り農地が耕作放棄化してもやむを得ない。



しかし、農業を取り巻く環境が厳しくても、多面的機能を持つ大切な農地を守り、次の世代に望ましい形で引き継いでいかなければならない。それには、中山間地直接支払交付金などを活用し農地や集落機能の維持を図ることはもとより、米作中心のやり方を見直し、農家負担を軽減できる作物の導入などを検討していくことが重要である。

今、米づくりが困難な圃場でもソバなら助成金が充実している。このため、昨年から本格的にソバ栽培を開始した。ソバの反収は大幅に伸び70kgを超え、条件不利地の耕作放棄地対策として十分採算がとれることがわかった。また、ソバ栽培に取り組む集落が今後も増えると予想されている。

このような状況を踏まえ、当組合としても、ソバの栽培技術向上を一層図り、刈取乾燥調製の体制を充実し、販売の努力を重ねることで、ソバが新たな山田の主力農産物となり、それが農地の維持につながればと願っている。また山田地域の特色を活かした持続可能な農業を目指すためには、元気な農業の担い手が現れ育つような環境づくりが求められる。これからも微力ながら若い農業者を支えつつ、意欲的な農家らと協力して新規作物の産地化等に取り組んでいきたいと思っている。

……………山田地域自慢の「蕎麦」をアピール……………

☆清水そばそば峠

「清水そばそば峠」は平成16年に清水集落に地域の活性化を目的としてお店ができました。地元産の蕎麦粉と清らかな湧き水で打った美味しい蕎麦を提供されておられます。店長の山藤エミ子さんは、「日々、如何に上手に蕎麦を打ち、美味しく調理し、お客様にお出しするかが私たちの大切な仕事です。」とっこり。同代表の谷上健次さんは、「山田地域には自慢できる米や野菜が沢山あり、ソバもその一つ。現在、婦中町の富山幸祐さんに自分がこれまで培ってきたソバ栽培の技術、販路、農地等を全て移譲した。彼には山田の特色を活かし付加価値の高い作物を育て販路を広げ、農業で飯が食えるよう頑張ってもらいたい。これからも応援していく。」と活躍を期待しておられました。



☆おんもり庵

「おんもり庵」はふれあい青空市山田の案山子にあるお蕎麦屋さんです。地元産の蕎麦粉「山田牛岳蕎麦」を使用した十割蕎麦などが人気です。青空市には美味しい蕎麦を目当てに来店される方が多く。店主の若林高行さんは、「蕎麦は作り手の体調や蕎麦の状態によって味が変わります。如何に美味しい蕎麦をお客様に食べていただくか常に勉強です。また良質のソバを生産しようと努力されている地元農家のためにも山田地域産のソバにこだわり続けたい。」と話され手際よく蕎麦打ちされていました。



◇農村振興・環境保全優良活動知事賞を受賞

☆ふれあい青空市

山田の案山子 代表 若林秀美さん

令和2年11月24日、富山県民会館にて第14回元気とやまむらづくり推進大会が開催され、設立15年のNPO法人山田の案山子が「農村振興・環境保全優良活動知事賞」を受賞されました。受賞理由は、農林業体験による都市農村交流や街中への出張朝市、帰農塾や農山漁村インターシップの受け入れ拠点となるなど、都市住民との交流や移住・定住の促進に取り組んでおられ、地域活性化の拠点・支援センターとして重要な役割を果たしていると評価されたものです。



受賞にあたり若林さんは、「自分達のやってきたことが評価され大変うれしい。同時に、案山子で取り扱う品物の大半は地域のお年寄りの方たちが丹精込めて栽培された農産物であり、手間を惜しまず作られた加工食品などです。来店された方の評判も良く、生産者と消費者の交流の場、お年寄りの生きがいの場ともなっています。その一方で、近年は、生産者の高齢化や農業の担い手不足などにより、店舗の品揃えが不足気味になっているなど課題はあるが、今後も山田地域の活性化に貢献できるよう努力していきたいと・・・。」と力を込めて話されました。

◇「農のある暮らし」を体感する3日間

☆とやま帰農塾 塾長 吉田良雄さん

とやま帰農塾は、都会の方が田舎暮らしの経験などを通し移住のきっかけにしてもらおう富山県の事業で山田の案山子が毎年実施しています。

今年度は、11月21日から2泊3日の日程で、山田交流促進センターなどで行いました。参加された県外の女性の方8名に、牛岳登山、野菜やりんごの収穫体験、そば打ち体験をしてもらいました。また、夜なべ談義では山田地域の現状や青空市の運営などについて真剣に意見を述べ合いました。



なかには、翌月ご主人を連れ再度おいでになる方もおられました。



過疎と高齢化に直面している山田地域に都市部から移住したいと希望される方がおられる。そのような方が年々増えている。とても嬉しいことです。

しかし、移住に結びつかないケースが多く、その理由の一番は住む家です。空き家をリフォームして住みたいと希望される方が多いものの、老朽家屋改修に係る経済的負担が大きかったり、場所的な問題だったり、所有者との意見の相違など様々です。一人でも一家族でも山田に移住してもらうため、今後も、移住希望者の窓口となり手助けしていきたいと考えています。空き家を貸していただける方、売っていただける方の申し出をお待ちしています。

連絡先：山田の案山子 ☎457 - 2333



成人おめでとうございます

山田地域成人式

日時 令和3年1月10日(日) 午前10時
会場 山田公民館(3F体育室)

『新成人の抱負』

成人という大きな節目を迎えられることをとてもうれしく思います。ここまで私を応援し続けてくれた両親・家族には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

私は、小さい頃から夢だった保育士になることができました。学校では、実習・授業などを通して保育士に必要な知識を学びました。実際に4月から保育の現場で子供たちと接しますが、学校での学びを活かして一生懸命頑張りたいです。

松本奈々さん

成人式を迎え、これまで私を支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

とりわけ、この20年間で日々健康で楽しく過ごして来られたのは、家族や友人の支えがあったからです。

成人となった今、社会人として常に自分自身を見つめ直し、責任のある行動を取り、後悔のない人生を歩んでいきたいと思えます。

土田佳奈さん

公民館ふるさと講座実施報告

「生活習慣予防」

10月12日(月)に体育室にて、自宅でできる簡単体操を行いました。保健師さんからフレイル予防についての話の後、運動指導員岡田先生の指導で無理なく身体を動かしてスッキリしました。毎日の生活にも簡単な運動を取り入れフレイル予防に心掛けたいと思いました。

※「フレイル」とは年をとって体や心の動き、社会的なつながりが弱くなった状態。



「かぶら寿司作り」

11月16日(月)に実習室にて、かぶら寿司の作り方を学びました。コロナ感染拡大防止のため実際に調理することは出来ませんでしたが、新村こうじみそ商店の新村さんの説明を聞き質問をしたりしました。その後、材料を持ち帰り自宅で作ります。食べごろの1週間後が楽しみでした。



子どもかがやき教室実施報告

「クリスマスオーナメント作り」

11月27日(金)に山田児童館にてクリスマスオーナメントを作りました。木の板に鉛筆で好きな形を描き、講師の方に切り抜いてもらいました。スパンコールをつけたり、リボンを結んだりして、すてきな作品が出来上がりました。



山田地域文化祭

1月3日(火)祝 山田公民館にて山田地域文化祭を開催(来場者110人)しました。会場には保育所、小・中学校、サークル、市民の方の素敵な作品を展示させていただきました。なお、今回は新型コロナウイルス感染防止のためステージ発表は行いませんでした。

また、富山県防災士会所属の防災士4名を講師に招き、コロナ禍における避難所の開設と運営方法について学ぶための講習会を行いました。参加された30人は段ボールベッドの組み立てを体験したり、家屋の耐震実験を見学したり、避難所での安全な食事の仕方を確認していました。「万一の災害に備え日頃から家庭や地域ですべきことが沢山あることに改めて気づかされました。」との感想を多くお聞きしました。

来場者の検温、非常食の調理等を担当していただいた山田赤十字奉仕団の皆さんをはじめ、文化祭の運営全般にわたりご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。



公民館ふるさと講座募集案内

山田公民館 ☎457-2055)へ
電話でお申し込み下さい。

「みそ作り」

体にとっても良い発酵食品。

手作りのお味噌を作しましょう。

日時 1月22日(金) 13:30~15:30

場所 実習室 出来上がりは6kgです。

講師 新村こうじみそ商店

参加費 1,000円

定員 10名

締切 1月15日(金)



※保存容器は各自で
ご用意ください。

「ハーブサシェ作り」

ハーブを使って匂い袋を作ります。

お気に入りの香りを選んでみてはいかが？

日時 2月25日(木) 13:30~15:30

場所 第3研修室

講師 尾間裕美子さん

参加費 500円

定員 10名

締切 2月18日(木)



「やまだふるさとだより」に対して、ご意見ご要望がありましたら、気軽にご連絡下さい。

お問合せ 山田公民館 広報担当：八田 Tel 457-2055 Fax 457-2207